

「生き生きオータムキャンプ」 事業報告

- 1 趣旨 森林等の豊かさを体感できる自然体験活動を通じて、児童生徒の森林環境への興味・関心を高め、豊かな情操を育むとともに異年齢集団による共同活動等これまで体験したことのない活動を体験することで自主・自立の心や生きる力を育む。

※SDGs の 17 の持続可能な開発目標のうち、関連する個別目標



4.質の高い教育をみんなに



5.ジェンダー平等を実現しよう



15.陸の豊かさを守ろう



17.パートナーシップで目標を達成しよう

- 2 主催 大分県教育委員会

- 3 期日 令和4年 10月29日（土）～30日（日） 1泊2日

- 4 会場 大分県立香々地青少年の家

〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地

TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

- 5 参加者 県内の小学4年生から6年生までの児童14名
(小4：1名 小5：11名、小6：2名)

- 6 活動プログラム

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
10月29日								受付 出会の集い	テント 設営	森林環境学習プログラム① 「森のハヤシライスを作ろう」 ※森で薪を集めて、火を起こし、 野外炊飯を行います。					入浴	自由 時間	ソロテントで 就寝		
10月30日	起床	朝食づくり 「ホットドック」 を作ろう	テント 片付け	森林環境学習 プログラム② ・森の探検 ・ネイチャー クラフト作り			昼食	別れの 集い 解散											

香々地青少年の家敷地内の森での活動を中心とした体験プログラムを編成した。全プログラムを通して、班での活動を基本とし、仲間と共に協力する場面や自分自身の力を発揮する機会を設け、子どもが自主的・自発的に取り組むことができるようにした。

<1日目> 出会いと交流 ～仲間づくり～

☆活動の様子

- ・自己紹介後、アイスブレイクとして「私は誰でしょうゲーム」を行い、互いを知り合い、キャンプネームを呼び合った。
- ・宿泊はソロテントとし、子どもは全員自力で設営した。
- ・薪集めを活動プログラムに取り入れた。森で木枝を拾い、大きな木はのこぎりで切断するなど積極的に活動する姿が見られた。
- ・野外炊飯でハヤシライスを作った。役割分担を行い、スタート。自分の役割にきちんと取り組み、協力する姿がすべての班で見られた。
- ・休憩時間は、森で遊んだり、談笑したりする様子が見られた。焼き芋や焼きマシュマロを作って楽しく食べる時間もあった。

☆指導のポイント

- ・参加者の不安を軽減し、集団に馴染めるよう学生リーダーを中心に笑顔と積極的な声かけを意識した。
- ・支援しすぎずになるべく子供の自主性を大切にし、活動させるように学生リーダーと確認した。
- ・すべての活動で、役割を分担し、協力する場面を設定し、所属感をもてるよう工夫した。
- ・ふりかえりの時間に、翌日の目標を考えさせ、しおりに記入させた。



<2日目> 自然の中での活動 ～森の素材でネイチャークラフトづくり～

☆活動の様子

- ・前日に「日の出を見たい」という声があり、起床後日の出を鑑賞した。「キレイ」、「すごい」、「初めて見た」などの声が聞かれた。
- ・朝食のホットドックは、全員完食。
- ・テント撤収・片付けは短時間できちんと取り組めた。
- ・森を探検し、どんぐりや木枝、落ち葉等の自然物を集め、ネイチャークラフト作りを行った。
- ・別れの集いの感想発表では、参加者全員が楽しかったこと、うれしかったこと、成長したことなどを発表した。
- ・学生ボランティアにサプライズで寄せ書きメッセージをプレゼントした。



☆指導のポイント

- ・テント撤収やキャンプ用具等の片付けは、支援しすぎずに自力で取り組ませるようにした。片付け場所を明確にし、活動しやすいよう工夫した。
- ・感想発表の内容を子どもに明確に伝え、準備をさせた。



7 参加者の声

(子供)

- ・一番の思い出は、ハヤシライスを作ったことです。協力して作ったハヤシライスは最高でした。
- ・休憩時間の鬼ごっこは楽しかった。
- ・森の探検をした後にネイチャークラフトを作ったことが楽しかった。「古い森」がイメージ通りにつくれた。
- ・テントを立てるのは苦労したけど、頑張ってきた。またいろいろな経験をしたい。
- ・みんなで日の出を見れてよかった。とてもキレイだった。
- ・キャンプに参加して、何でも挑戦しようと思うことができるようになった。これからもいろいろなことに挑戦したい。
- ・ソロテントを組み立てるのも一人で寝るのも初めてで、すごく緊張したけど楽しかったです。自立心を育てたと思います。

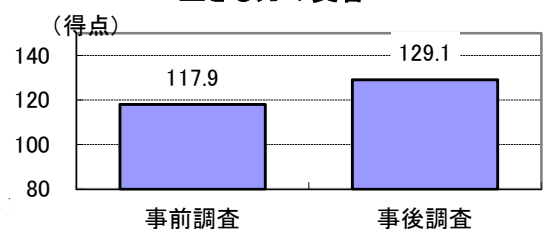
(学生ボランティア)

- ・初めは不安でしたが、子どもたちから声をかけてくれたのでとても気持ちが楽になった。
- ・とにかく楽しかった。
- ・ボランティアリーダーとしてうまくできたとは言えなかったけど、子どもたちが楽しそうに活動している姿をみてうれしかった。
- ・職員の方々から子どもたちに対する接し方や姿勢について学ぶことが多かった。

6 成果

- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的能力が 5.6 ポイント、徳育的能力が 2.9 ポイント、身体的能力が 2.7 ポイント、生きる力は 11.2 ポイント向上した。
- ・参加者の 86%に生きる力の向上が見られた。
- ・アンケートでは、すべての参加者が「また参加したい」、「成長」
- ・グループ内での役割を明確にしたことで、仲間と共に協力したり、自分の力を発揮したりする場が増え、協調性や思いやりの心が育まれ、生きる力の向上につながったと考えられる。
- ・ゆとりある時間設定でプログラムを計画したことで、子どもが時間に追われることがなくなり、活動にじっくり丁寧に取り組むことができたことや十分に自由時間を確保したことが満足度の高さにつながったと考えられる。
- ・学生ボランティアと事前にミーティングを行ったことで、学生の不安を解消できた。

生きる力の変容



7 課題

- ・定員 24 名に対して応募者は 16 名と定員に達しなかった。今回は、体験型子ども科学館オーラボでチラシを配布するなど広報の工夫を行った。今後も SNS の活用等積極的な広報が必要である。
- ・事業の目的、内容、魅力等を学校等に広く周知し、新規参加者の開拓も必要である。